

科目の内容（シラバス）

②授業科目名	③必修／選択の別	④単位数	⑤含む必須の教育内容番号	⑥担当教員名	⑦実施形態
文化人類学	必修	2	3・49・50	上水流 久彦	通信
⑧授業のテーマ及び到達目標	【授業の目標】 知識・技能の観点 1 世界を事例に日本の文化の特殊性を説明できる。 2 日本とは異なる文化のありようを説明できる。 3 文化相対主義を説明できる。 思考・判断・表現の観点 4 私たちの常識が持つ問題点を指摘できる 5 文化をめぐる現代的課題を解説できる 主体性・協働性の観点 6 日本のジェンダー状況に対して自分の経験などを踏まえ討議に寄与できる。				
⑨授業の概要	現代社会は異なる文化の人々とともに生きることが求められている。本授業では、異文化に対してどのように考え、どのように対応すれば良いか、その基本的な姿勢（自文化を基準とした理解の問題点）について学ぶことを目的とする。具体的には文化人類学が、これまで、どのように文化を調べ、どのように理解してきたかを、主に日本の事例を世界の事例と比較するなどを通じて紹介する。テーマとしては、セクシャリティ、ジェンダー、婚姻、家族、宗教、観光などを取り上げる。				
⑩授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	イントロダクション				3・49・50
2	文化人類学とは				3・49・50
3	第2章 日本を問い直す				3・49・50
4	第13章 食から学ぶ				3・49・50
5	第7章 人とつながる				3・49・50
6	第11章 とともに暮らす				3・49・50
7	第10章 移動する				3・49・50
8	第6章 性を生きる				3・49・50
9	第6章 性を生きる				3・49・50
10	グループ討論 日本のジェンダー問題				3・49・50
11	第3章 イエにとらわれる				3・49・50
12	第3章 イエにとらわれる				3・49・50
13	第5章 信じる				3・49・50
14	第9章 文化を売買する				3・49・50
15	第1章 文化と出会う				3・49・50
16	試験				3・49・50
⑪使用テキスト	宮岡真央子・渋谷努・中村八重・兼城糸絵編『日本で学ぶ文化人類学』、2021年、昭和堂2530円				
⑫参考書・参考資料等	授業で紹介します。				
⑬同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)	授業時間に随時発言可とし、オンラインにて毎回ミニッツペーパー提出させている。				
⑭学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)	イントロダクションとグループ討議の講義以外は、小テストを課し、出欠管理・学習の度合いを測ってる。				
⑮学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)	小テスト55％（到達目標 1、2、3）、期末試験40％（到達目標4、5）、グループ討議5％（到達目標6）				